

## 校舎配置案ごとの特徴比較

既存		A案	B案	C案
比較項目	改築基本方針該当番号			
校舎環境	教室配置 I, II, III, V	○ ·普通教室は2階、3階 東側（校庭側）に集約	○ ·普通教室は2階、3階 南側（校庭側）に集約	△ ·普通教室は2階、3階 南側（住宅側）に集約
	適応指導教室 I, II, V	○ ·学校活動エリアと重複しない位置に配置 ・体育館・特別教室へアクセスしやすい	△ ·別棟だが学校活動エリアに近接する ・体育館・特別教室へアクセスがしにくい	△ ·学校活動エリアと重複しない位置に配置 ・特別教室へアクセスがしにくい
	窓先の環境、日照、採光 I, III, IV	○ ·普通教室は東側採光	○ ·普通教室は南側採光	○ ·普通教室は南側採光（一部東・西側）
	動線・アクセス V, VI	○ ·生徒は3方向からアクセス可能 ・生徒・適応指導教室・開放の動線を分離	△ ·生徒は1方向からアクセス可能 ・生徒・適応指導教室・開放の動線が一部近接	○ ·生徒は2方向からアクセス可能 ・生徒・適応指導教室・開放の動線を分離
校庭環境	校庭配置、形状、広さ I, III, VI, VII	○ ·既存よりも広くなる（現況+130m <sup>2</sup> 程度）	△ ·既存より狭くなる（現況-450m <sup>2</sup> 程度）	△ ·既存より狭くなる（現況-100m <sup>2</sup> 程度）
	日照 I, III	△ ·冬季、午後にかけて一部に日影が生じる	○ ·校庭にほとんど日影が生じない	△ ·冬季、午前に一部に日影が生じる
	車両アクセス I, III, V	○ ·3方向 アクセス可能	△ ·1方向 からアクセス可能	○ ·2方向 からアクセス可能
周辺環境	日影 III	△ ·西、東及び北側の一部の日影範囲が既存より増える	△ ·西、東及び北側の一部の日影範囲が既存より増える	△ ·西、東及び北側の一部の日影範囲が既存より増える
	学校へのアクセス II, VII	○ ·周辺道路全てからアクセス可能	△ ·周辺道路2方向からアクセス可能	△ ·周辺道路2方向からアクセス可能
改築中の教育環境	仮設校舎 I, III	△ ·仮設校舎が必要（40ヵ月）	△ ·仮設校舎が必要（32ヵ月）	△ ·仮設体育館が必要（44ヵ月）
	工事中の校庭 I, III	○ ·校地内に一部確保できる期間が長い（63ヵ月）	△ ·校地内に一部確保できる期間がA案より短い（30ヵ月間）	△ ·校地内に一部確保できる期間がA案より短い（23ヵ月間）
工事期間		<ul style="list-style-type: none"> <li>事前解体工事</li> <li>仮設校舎建設工事</li> <li>新校舎建設工事</li> <li>既存校舎等解体工事</li> <li>環境整備工事</li> </ul> 計 72ヵ月	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前解体工事</li> <li>仮設校舎建設工事</li> <li>新校舎建設工事</li> <li>既存校舎等解体工事</li> <li>環境整備工事（2期新校舎建設工事期間に含む）</li> </ul> 計 72ヵ月	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前解体工事</li> <li>仮設校舎建設工事</li> <li>新校舎建設工事</li> <li>既存校舎等解体工事（北校舎1階解体、既存校舎改修含む）</li> <li>環境整備工事</li> </ul> 計 71ヵ月
コスト		計 $\alpha$ 円	計 $\alpha + 6$ 億円	計 $\alpha - 4$ 億円

※工事期間、コストについては、あくまで現段階の想定であり、実際には前後する可能性があります。